

令和6年8月27日

## 学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和6年8月27日（火） 17：30～18：30

場 所：龍馬情報ビジネス&フード専門学校 テクノホール

参加者：福永龍雄委員、加藤稔委員、坂本昌二委員、安井裕治委員、矢野太久委員  
宮本高憲委員

中川校長、西成副校長、鳴瀧部長、松下

欠席者：岩郷雄介委員

### 《議事》

開会宣言…西成副校長

本会開会宣言があり、本会を定刻に開会した。

学校長挨拶…中川校長

昨年度の学校運営の報告

教育活動は全体的に良い状況であった。会計ビジネス学科は、税理士試験科目合格者が出た。様々な検定試験などで、例年以上の成果が出ていた。近年、地元企業との連携、様々な企画も順調に運んだ。就職は進路決定率が99.4%であった。今年度は新学科を設置した。留学生の対応学科で、今年度は18名在籍でスタートした。校舎は昨年度まで運営していた小津町の生涯学習センターのあとに、国際グローバル校舎として留学生を受け入れ、9月から学生たちが学んでいく。今年度の入学生は昨年並みの198名で、在籍者は371名である。昨年度より10名弱減少した。学校全体の取り組みとしては、昨年度に引き続いて、生活指導力の向上、授業でのICT活用の推進を目標としている。今年度は学校全体として、特に教員のスキルアップに取り組んでいく。

資料説明、令和5年度自己点検・評価報告…西成副校長

「自己点検・評価」において、評価に変更があった1項目の変更理由、解決方法が項目毎に説明された。

- ・項目番号4-1 「学生の就職に関する目標を設定したか。」学校としての目標を設定したので、評価を3から4に上げた。

討議・意見交換

加藤委員…項目番号7-6、7-10

「決裁規程が文書化されているかの項目に対する評価が低い改善できないか。」

（西成）→総務部の作業が進んでいない。

「賃金制度は文書化されているか。」「教職員のベースアップはされているか。学費アップについて、他校の学費と比較はされているか。」

(西成) →当学園のベースアップは、あまりない。高知県も最低賃金が上がり、それに合わせて、総務部では初任給の見直しを掛けている。現状の教職員のベースアップの話はない。学費アップについては、今年度の学生より授業料を上げたが、2年後も学費アップを検討中である。他校との比較もしている。

坂本委員

「学校見学の際に、安価な値段でとても美味しい料理を提供されていると感じた。そのようなことが広がっていくことで、専門学校の意味が周りに認知されていくと思う。」

(西成) →多くの高校が体験実習に来ている。

福永委員…項目番号2-25

「専門性や指導力等の維持や向上のための外部研修・研究へ派遣しているか。」

(中川) →教員のインターンシップについては、企業で受け入れてくれた学科もあった。公務員学科は、対象の企業が存在しないので、企業だけでは難しい部分があり、他の専門学校へ研修に行くことも可能としたため、結果として教員が県外の専門学校へ研修に行った。今年度も外部研修を行い、教員のスキルアップは行っていく。

(西成) →昨年度、情報系学科教員が企業研修を1週間行った。今年度はビジネス系学科で実務研修を行った。アパレルの店舗にも研修に行く。製菓製パン学科は、他県の専門学校へ研修に行く。教員からは、他県の専門学校へ行くと非常に勉強になるという声がある。今後も継続して続けていく。

安井委員…項目番号2-3

「カリキュラム作成メンバーの中に高校生の現状、社会ニーズを反映させるために複数の内部職員をいれているか。」「内部職員を入れるとは、高校の先生などを入れるということか。」

(中川) →内部職員とは、就職指導している職員、高校へ出向いている募集の担当職員などをカリキュラム作成メンバーに入れると解釈している。カリキュラムや教務体制について、報告会を年2回しているなので、その報告会に参加してもらっている。カリキュラム検討委員会は開催していない。

「国際ビジネス学科は、なぜ貴校に設置したのか。」

(中川) →RDBに設置していれば整合性が取れているが、専門学校は課程の種類があり、国際ビジネス学科は商業実務関係専門課程に当たるので、商業実務課程の学科がある当校に設置することとなった。

「最近の学生が就職先を選ぶ理由や傾向などはあるか。」

(中川) →あまり変化はないと思われる。

(鳴瀧) →学生自身にやりたいことがあって専門学校へ入学しているが、最終的に学習した専門分野へ就職するのは半数程度で、残りは何をやりたいのかが分からない学生が多くいる。教員側が学生の適性を見極めた上で就職先を斡旋することが増えている。学生からは、給与や休みなどについては聞いていない。

(中川) →就職先の条件は良いが、最終的に内定した学生の希望している条件等は様々である。

(鳴瀧) →当校と縁のある企業やOBの多い企業が、必然的に多くなっている。

(西成) →調理系学科の学生からは、きつい企業は避けたいという声を聞く。大手のホテルなどは忙しいので、それを嫌う学生が少し多い。給与は良いが、大変さを嫌う。

矢野委員…項目 2-6、2-14、9-6

「各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか。」

(中川) →当校のシラバスは、連続した1回分を記載したシラバスで、1時間ごとのコマシラバスは作成していない。

「その評価結果をもとに改善活動をしているか。」

(西成) →改善活動はしているが、記録を残していないので、根拠資料がない。

「自己点検・評価の結果に基づき期限を定めて改善計画に基づいた結果の検証がされたか。」

(西成) →細かく計画まで立てていない。改善活動はしているが、根拠資料がない。

宮本委員

「各項目の評価5が多い。5の評価で良いと思うが、5をつけてしまうと後がない。本来、聞かれている意味、自己点検をすることの目的、何を求められているのかを考えながら、一つ一つ見ていると難しすぎて、評価5が良いのか、評価なしをどのようにして評価ありにするのかと考えた。」

(西成) →本来は目的に沿って自己点検をするべきである。職業実践専門課程の中で、やらなければいけないので、一つ一つ計画を立てて実行し、改善に結び付けなければいけない。今後の課題である。

「予算的なことで、地元の企業として協力できることがあれば、協力していきたい。」

(西成) →調理系学科の教員に伝えておく。

西成副校長…文科省より令和8年から学校教育法の一部を改正する法律が施行される。専修学校も自己点検が必ず義務付けとなる。文科省でも自己点検の項目を再度検討して公表する予定である。自己点検項目も変わってくるかもしれない。国が専修学校の位置づけを上げていこうと動いており、令和8年から大学に合わせて単位制に変わる予定である。

カリキュラムブックの説明…西成副校長

閉会宣言…西成副校長

本会閉会宣言があり、本会を閉会した。

書記 松下